


自主学習 チャレンジコーナー1・2年

- ☆ 宿題から自主学習までの流れの例を示してみました。
- ☆ お子様が実際に取り組むときの参考となれば幸いです。

・ **まず、宿題です。宿題が終わったら次から選んでチャレンジできるように励ましてください。**

【基礎力アップメニュー】

国語	<ul style="list-style-type: none">・ 漢字ドリルや教科書を使って、ひらがな、かたかな、漢字を正しく読み書きできるよう練習する。・ 習った漢字を使ってかんたんな文を作る。・ 教科書を声に出して読む。・ 教科書を書き写す。	<p>低学年では、家族による読み聞かせも大変効果があります。</p> 
算数	<ul style="list-style-type: none">・ 計算ドリルや教科書を使って、計算問題を練習する。・ 長さを比べたり、測ったりする。・ 形の仲間集めをする。・ 時計の読み方を覚えよう。・ 九九の練習をする。	

千葉県教育委員会では、学庭学習事例集（プリント素材）を提供していますので参考にしてください。

(<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2011/kateigakushuu.html>)

☆鉛筆の正しい持ち方や丁寧なノートの取り方（マス目からはみ出さないなど）が身に付くよう、気づいたことを教えてあげましょう。

eライブラリを活用して、基礎力を高めましょう。
ご家庭のパソコンから「ラインズeライブラリ」の家庭学習サービスが利用できます。

アドレス「katei.kodomo.ne.jp」

ID・パスワード等は学校にお問い合わせください。



【チャレンジメニュー】

<課題をもって自ら学ぶ力がアップ!>

- ・ 学習したことを振り返り、自分の言葉でまとめる。
- ・ 生活の中の不思議に思うことについて、図鑑などを使って調べてみる。
- ・ 進んでいろいろな本を読んでみる。（絵本、物語、伝記、科学読み物、図鑑など）読んだ本について家族や友達に紹介してみる。
- ・ 読んだ本について、本の内容や感想を書く。
- ・ 日記を書く。

最後に勉強したことを認め、褒めてあげてください。
次のやる気につながります。



小学校低学年（1・2年生）の保護者の皆様へ

家族パワーで学力アップ！

家庭学習のすすめ



香取市教育委員会

「家庭学習のすすめ（リーフレット）」

**家庭学習の重要性が
改めて注目されています。**



子どもたち一人一人は多様な可能性を秘めた存在であり、その力は学校・家庭・地域が連携することにより、育まれる効果が高まります。家庭では、その基盤となる資質や能力、態度を養っていただくことが重要になります。例えば、早寝・早起きの習慣、家の手伝い、家庭学習の定着などです。

今回、香取市教育委員会では、家庭学習が充実するよう「家庭学習のすすめ（リーフレット）」を作成しました。お子様の家庭学習が習慣化され、社会で自立し、「生きる力」が向上するよう、ぜひ本手引きをご活用ください。

家庭学習による効果

家庭学習によって、次のような効果が期待できます。



その1 学習したことがしっかりと身に付きます！

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。また、予習することも大切です。予習は授業を分かりやすくします。

特に漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで定着していきます。学校で「分かった」ことが、反復練習によって「できる」という自信につながります。

その2 脳の働きがよくなります！

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように毎日繰り返し使うことで活発に働くようになるのです。鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことに順応できるようになります。年齢の小さいうちからどんどん脳を鍛えたいものです。

その3 学習する習慣が身に付きます！

毎日、一定時間、決まった場所で家庭学習を続けることにより、自ら進んで学習する習慣が身に付きます。毎日続けることで、やがて、あたりまえの習慣になり、学ぶ力が大きく伸びていきます。毎日欠かさず家庭学習をするという習慣を続けさせてください。

その4 忍耐力・根気・集中力が高まります！

家庭学習の最大の敵は、テレビや携帯電話(スマートフォン)、ゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、我慢強さ、根気、集中力を養うことができます。テレビや携帯電話(スマートフォン)、ゲームなどの時間を決めて、学習や読書等に集中できる時間をしっかりと確保することが必要です。

その5 家族のふれあいの時間が増えます！

低学年のうちから「本を読んでいるとき、近くで聞いてあげる」「勉強が分からないとき、ヒントを与えたり一緒に考えたりしてあげる」など、学習している子どもに親がかかわることによりコミュニケーションが図れます。家族の触れ合いが増えることは、やがてくる思春期の子どもの対応にも影響を及ぼします。触れ合いを多くもつことにより、親として適切なアドバイスも可能となり、心身ともに健やかな子どもの育成につながります。

家庭学習の習慣化 5つのポイント



家庭でできることは、家庭学習の環境づくりです。まずは、家族が協力し合って、学習習慣が身に付くような場づくりから始めましょう。

ポイント1 生活のリズムを整えましょう

- ① 「早寝・早起き・朝ご飯」や朝の排便など、規則正しい生活を送らせましょう。
- ② 規則正しい食習慣をつけ、基礎体力を付けさせましょう。
- ③ テレビや携帯電話（スマートフォン）、ゲームの時間などの決まりをつくり、約束事を守らせましょう。

ポイント2 学ぶ雰囲気をつくりましょう

- ① 学習は、静かで集中できる環境で取り組むことが大切です。学ぶ雰囲気づくりは、家族の協力が必要となります。
- ② 身の回りの整理整頓をさせましょう。学習の場は、学習に使うものだけを置くようにし、ゲーム機やマンガなど気の散るようなものは近くに置かないようにさせましょう。

ポイント3 努力を認め、励ましましょう

- ① ものごとをやり遂げる成功体験により、子どもは自信をもち、意欲を高めます。「よくできたね」「きれいに書けたね」など、がんばりを認める言葉をかけましょう。
- ② 「この問題、分からない」というときも、投げ出したりすることがないように「こうしたらいいんじゃない」と子どもの努力に力を貸しましょう。どうしても解決できないときは、問題を解こうと努力した過程を称賛し、「明日、先生に聞いてごらん」とアドバイスをしてください。

ポイント4 子どもとの対話を深めましょう

- ① 学校での出来事や学習の様子を聞き、子どもががんばっていることや困っていることを理解するようにしましょう。
- ② 新聞記事やニュースなどを話題にして、社会へ目を向けさせましょう。
- ③ お互いのおすすめの本を教え合うなど、読書への関心を高めましょう。



ポイント5 生活の中の学びを大切にしましょう

- ① 買い物に行ったとき、野菜や魚の名前を見て漢字を覚えたり、商品がどこでつくられたか、産地はどこかなどを話し合えば、社会的な見方が身に付いたりします。
- ② お手伝いや家事を分担して、人の役に立つことの喜びを味わわせましょう。また、生活の中でものの見方や考え方を広め、深めていくことで、知的好奇心が育ちます。